



多久市立 東原彦舎 (とうげんしょうしゃ) 中央校 (義務教育学校)

おへそ

学校便り No. 22 R4. 3. 15

夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成

— 深山 (しんざん) 大沢 (だいたく) 龍蛇 (りょうだ) を生ず —

【学校訓】 希望・自覚・鍛錬・恕 文責 校長 下村 昌弘

e-mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

春を前に思うこと —自力登校への願い—

毎朝、校門に立ち、みんなの登校を迎えています。

この冬は幸い降雪による影響はありませんでしたが、それでも冬の天山嵐 (てんざんおろし) は寒さ厳しく、手先はもちろん足先や耳まで痛くなるほどの日が続きました。

そういう日でも、マフラーに首を埋めながら坂道を登ってくる人、顔を真っ赤に白い息をハアハアさせながら自転車を引いてくる人がたくさんいます。

そうした中、過日、次のような新聞記事に出会いました。

「遠距離登校自慢『元気もらった』」 (令和4年2月17日)。

大良小学校 (唐津市) の松本さくらさん (3年生) が佐賀新聞のひろば欄に「学校じまん」と題した内容を投稿し、その内容に読者が元気をもらったとのいう記事です。

学校じまん
唐津市大良小3年 松本さくら

わかもの

子 だということ。教室で読書をしていて、運動場で遊ぶ元気な声がきこえてきます。なぜそんなに元気かというところから1時間以上もかけて登校してきている人がたくさんいるから。朝は、暗いうちから歩いてくるので、みんなのランドセルにはじわじわ光るシールがはつてあります。冬の寒い朝は、まだ暗い道を歩いていると、光るシールが守ってくれます。登校も下校も、1時間以上かけて1年生から6年生まで一緒に歩きます。暑い夏の日は大変です。水筒も1本では足りません。雨の日もみんな歩きます。車で来る人はほとんどいません。私は学校からはそんなに遠くないので、遠い所から歩いてみたいと思うこともありません。そうしたら、もっと元気になるかなと思います。私の学校は全校で33人しかいないけど、少ない人数でもみんな元気いっぱいです。

ではその「学校じまん」には何が書かれていたか (左参照)。かいつまんで紹介すると「学校の自慢は『みんな元気』なこと。1時間以上かけて歩いて登校する人がたくさんいる」というものです。それを読んだ方が「自分も負けないように頑張ろうと思った」などの感想を学校に寄せてくれたのだそうです。

本校は通学範囲が広く、環境を大良小学校と同列に見ることはできません。また、家庭や本人の事情の違いもいろいろあるでしょう。でも、本校ではスクールバスがあり、7年以上には自転車通学を認めており、自力で登校できる環境は整えています。

そこで、どうでしょう皆さん、「毎月10のつく日は自力登校」などというのは。毎月、10日、20日、30日は事情がない限り基本的に自力で登校するというのは、、、。

今は突拍子もない思い付きかもしれませんが、いつかそういう日がくればなあと思いつつ春を待ちわびる今日この頃です。

感謝と誓い —1/2成人式に思う—

3月4日 (金)、コロナ禍の中、保護者の皆様には参観をご遠慮いただきましたが、4年生の2分の1成人式を挙行了しました。(学校HPに校長挨拶を掲載)

式典では10歳の記念証書を受け取った後、全員歌唱で感謝の気持ちを家庭に届けました。そのあと、各教室で一人ひとりが自分の将来への誓いを電子黒板に投影しながらプレゼンしました。



「パテシエになりたい」「サッカー選手になりたい」などの楽しい夢もさることながら、その調べた内容の詳しきやパソコン活用のレベルの高さにとても驚きました。皆さんすごい大人になりそうです。

意志あるところに道は拓ける —7年生立志式— (学校HPに校長挨拶を掲載)

中学年ブロックの節目となる最大の行事である立志式を3月9日(水)実施しました。



式では一人ひとりが色紙に自分の志を端的に表した一文字を墨書し、それを掲げながら自分の決意を語りました。「努」「多」「希」などどれも力強さを感じさせてくれました。いつか将来くじけそうになった時、進むべき道に迷いが生じた時、ここに立ち返って来てください。

また記念講演として多久市出身で元中学校長の中野義文先生がご自身の辛い経験をもとに熱く語ってくださいました。「午後三時の太陽を見てはいけない(いたずら

に Youtuber に憧れるな)」にまずは自分の芯をしっかり持つことの大事さを感じました。

ああ希望あれ —第5回卒業証書授与式—

3月11日(金)第5回卒業式を挙行了しました。平成25年に市内3小学校と1中学校が統合され、小中一貫教育校としてスタートして9年目、義務教育学校として5回目です。今年9年生は小中一貫の1期生でした。

コロナ禍の中、在校生が一堂に会することは叶わず、リモートを活用しての儀式でしたが、厳粛な式典で送り出すことができました。

前日のお別れ会では、1年生から8年生まで、それぞれの学年から卒業生に向けた出し物を事前収録ビデオで披露してくれました。

年齢的に幅広く交流した日々。先輩後輩の絆を感じ、9年生もあらためて自分が過ごしてきたこれまでの日々を走馬灯のように思い出していたようです。



オミクロンの猛威 —オンラインで対応—



新型コロナウイルス感染症の第6波。本校ではいまだ終息の兆しを感じられません。特にオミクロン株は感染力が強く、今回は若い世代の感染者が多い傾向があります。

さて、本校でもいくつかのクラスで学級閉鎖をしました。しかし「学びを止めてはならない」との思いから、オンラインを活用して授業を実施しました。

子どもたちからは「意外に面白い」「先生や友達の声に集中できる」「チャットで質問できて便利」などの声が聞かれました。さすがデジタル世代のみなさん。これからも一人一台のパソコンを大いに活用してくださいね。

また、言うまでもありませんが、新型コロナは、誰もがかかりうる可能性がある感染症です。心ない誹謗中傷は絶対にあってははいけません。

【これからの主な予定】

3月24日(木) 修了式・辞任式

4月6日(水) 始業式

令和3年度の最終号です。一年間ご愛読ありがとうございました!